

# 校長室だより

## 変化をチャンスと捉え創造の2学期に！



新型コロナ感染情報が日々更新される中、前半はオリンピック選手の活躍から勇気もらい、後半は長雨が心配された夏休みもようやく終わり、本日2学期始業式を迎えました。28日間の夏休みを振り返りながら、始業式では2学期に向けて次のような話しをさせていただきました。

### 心に残った東京オリンピック2つのエピソード

おはようございます。いよいよ今日から2学期が始まりました。2学期は、夏から秋、そして冬へと3つの季節が変わっていく、1年間で最も長い学期になります。休み中に皆さんの大きな事故や怪我等の連絡もなく、また、コロナウイルス感染症のレベルは5に上がりましたが、今日予定通り2学期がスタートできたことを大変嬉しく思います。今年の夏休みには、様々なできごとがあったと思いますが、オリンピックの結果やコロナ感染情報・大雨情報などが次々と更新され、落ち着かない日々を過ごしたのではないのでしょうか。2学期が始まっても世の中の動向を注視し、感染予防をしっかりとしながら充実した日々を重ねていきたいものです。

さて、夏休み前半はオリンピックに関わる様々なニュースが日々発信されましたが、今日は私の心に残ったオリンピックのエピソードを2つ話したいと思います。1つ目はソフトボールで金メダルを取った上野由岐子投手の話です。上野選手は13年前の北京オリンピックで金メダルを取ったのですが、39歳になった今年の東京オリンピックに再び出場し、2度目の金メダルを獲得しました。13年という年月は、今中学校1年生の人が生まれてから今に至るまでの長い時間です。皆さんのお母さんの中には上野選手と同じくらいの年の人もいないのでしょうか。この様な選手として決して若いとは言えない上野選手は、北京で1度金メダルを取ってしまったため、「ソフトボールはやりきった。もう、オリンピック種目からなくなってしまうたし、やめよう。」と何度も思ったそうです。この様な中、東京オリンピックでソフトボールが種目として復活することが決まり、全日本の宇津木監督から「ぜひ後輩を育てながら一緒にやってほしい」とお願いされ、日本代表に復帰しました。この様に上野選手は監督に頼まれ準備をしていく中で、オリンピックの1年前、2019年4月、試合中にピッチャーライナーが顔面の左顎を直撃し、全治3ヶ月の重傷を負ってしまいました。周りの人は「上野はこれでオリンピックに出られなくなった。」と思ったそうです。この様な中、不運な事故に遭った彼女は入院中次のようなことを思ったそうです。

「今回の事故は、『このままじゃだめだ！』と神様が教えてくれるために起こしてくれたんだ。」

この事故をきっかけに本気でソフトボールに向き合うようになった上野選手は、今回再び金メダルを獲得することができました。自分の身に起きたピンチをチャンスに変えた上野選手の生き様は、私たちに人生の大事な視点を身をもって示してくれたと思いました。

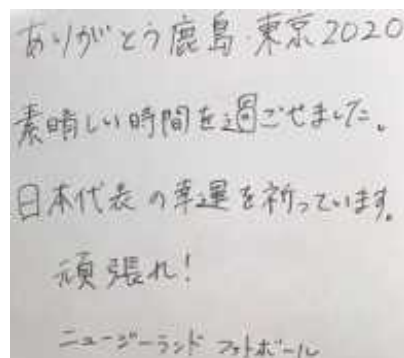


<裏面に続く>

【13年ぶりに金メダルを取った日本チーム】

2つ目のエピソードは、サッカー日本代表が準々決勝で対戦したニュージーランドチームのエピソードです。この試合は白熱した接戦で、延長戦でも0-0で決着がつかず、PK戦の結果日本が勝ちましたが、負けたニュージーランドチームの試合後のロッカールームに次のようなメッセージが残されていたそうです。

**ありがとうございます鹿島 東京2020 素晴らしい時間を  
過ごせました。日本代表の幸運を祈っています。  
頑張れ！ ニュージーランド フットボール**



【ニュージーランドチームのメッセージ】

悔しさや無念な気持ちがある中で、このようなメッセージを残せるニュージーランドチームを本当に素晴らしいチームだと思いました。「カッコいい生き方」とはこの様な姿だと思い、自分も身の回りに起きる様々な出来事を見て感じて、「カッコいい生き方」を選択していきたいと改めて思いました。目の前に落ちているゴミを見過ごすか拾うか、コンビニのレジで店員さんにちゃんと挨拶をするかしないか、こんな小さなことも「どちらがカッコいい生き方か」で判断できそうです。この様な「カッコいい生き方」と言えば、夏休み中に行われた2年生の宿泊学習の時にも見られました。7月26日の夜、白樺湖ロイヤルホテルに一泊したのですが、夕食・朝食はバイキング形式でした。各クラス毎に時間をずらして班別に食事を済ませていく中で、各クラス食事を済ませると自然とテーブル毎に食器を片付けまとめて置き「ごちそうさまでした」をして席を立つ姿がありました。この様な姿はまさに身近な「カッコいい生き方」でした。

また、特にオリンピックで印象に残った言葉は「感謝」という言葉です。出場したほぼ全ての選手が試合後のインタビューで「この様なコロナ禍の中、多くの人に関わっていただき、オリンピックを開催していただいたことに本当に感謝したいです。」と述べていました。自分の人生を賭けて準備をしてきた選手の言葉だからこそ、勝ち負けに関係なく、今年の様な特別な状況の中、様々な人の支えがあって試合ができたこと自体への感謝の言葉は心に響きました。

さて、いよいよ今日から2学期です。2学期の最初は、自転車の漕ぎ始めと同じです。自転車は最初の漕ぎ始めは大変ですが、いったんスピードが出ると楽になってきます。最初は少し力を入れなければならないので大変ですが、少しの辛抱ですぐにペースがつかめるはずで、まずは来月に迫った秋桜祭の成功に向けて、各クラス・学年・そして全校が一致団結して漕ぎ進めましょう。夏休み中には本部役員の皆さんを中心に、今年度の新しい企画であるバルーンプロジェクトが進められていました。私も休み中に市役所ホールに設置したバルーン和紙へのメッセージコーナを見てきましたが、地域に新しい風を吹かせる画期的な企画だと思いました。新型コロナ感染拡大は変異ウイルスの感染へと進み、今まで以上に学校生活でも感染予防に気をつけなければなりません。しかしながら、2学期の生活の中で、「コロナだからできた」「コロナでもできた」と言えることを探し、見つけ、そして創り出しながら成長していく実りの2学期にしていきたいと思います。以上で2学期始業式の話を終ります。

今年の夏休みは、コロナ感染拡大予防とオリンピック開催という矛盾を抱えながら、複雑な思いで過ごした夏休みではなかったでしょうか。2学期は1学期の成果と課題を踏まえ、まずは来月に迫っている秋桜祭の成功に向けて、全校で一致団結して取り組んでいきたいと思えます。コロナ禍の状況は刻々と変化していますが、「変化をチャンス」と捉える精神で2学期も充実した日々を創り出していければと思います。学校へのご意見、ご要望等ありましたら、些細なことでも構いませんので右の連絡先へお問い合わせ下さい。2学期も新型コロナ感染に負けないよう「全ては中込中学校の子どもたちの笑顔のために!」、「生徒も先生も、明日も早く行きたいと思う学校づくり」を目指し取り組んでまいります。今後ともご支援・ご協力よろしくお願い致します。(文責：大西孝一)

佐久市立中込中学校

\*ご意見、ご要望、お問い合わせなどは、下記までお寄せ下さい。  
TEL 0267-62-0725  
Fax 0267-62-2876